

インターネットラジオ局がつくる“読む”ラジオ

# AWAPURADIO

アワプラジオ通信

2016.04

『東京ラブレター』～インタビューシリーズ～

## ドイツを拠点として ドキュメンタリー映像を制作する



映像作家 国本隆史さんに聞く

〔くにもとたかし〕

1980年、東京都国立市生まれ。OurPlanet-TV やたかとりコミュニティセンター（神戸市長田区）での映像制作などを経て、現在はドイツ・ブラウンシュヴァイク在住。最近の作品にドイツと日本の放射性廃棄物について取り上げた「Endlager（最終処分場）」。

今回はドイツと日本をスカイプでつなぎ、インタビュー（番組収録）を行いました。

●ナビゲーター（インタビュアー）

あべこう一、高木祥衣（OurPlanet-TV）

—映像の道に進んだきっかけを教えてください。

高校生のとき、友達が学園祭で上映するミュージッククリップをつくっていて、それを手伝い、面白いなと思いました。大学生のとき、バイトをして初めてビデオカメラを買い、内モンゴル、中国を旅しながら撮影するうちにだんだんはまっていきまして。最初は作品にしようというより、遊び道具でした。「自分の視点がつくれる」というところが魅力的でした。

—ご出身の東京・国立市の国立駅を

描いた『駅舎に登ろう』（2007年）が初監督作になりますか。

その前に一つ、ドキュメンタリーをつくっていますが、これがほぼ初監督作品です。以前、JR 国立駅は大正時代につくられた古い駅舎でした。赤い三角屋根の駅舎で、その風景が親しまれていました。ところが高架化する工事のため、その駅舎を壊すか、いったんどこかへ移動させなければならなくなりました。その話を聞いたとき、きっと誰かがどこかへ残してくれるのだろうと思っていました。ところが

どんどん壊す方向に話が進んでいきます。市と駅舎を残したい市民の話合いがうまくいかなかったり、残したいという思いでつながっているはずの市民の足並みが揃わなかったり、僕は何かモヤモヤするものがありました。今は解体されて保管されています。結局、取り壊されることになったわけですね。そこで解体される前に、何かモヤモヤした気持ちを表現したいと思い、じゃあ壊す前に登ってしまおうということで駅舎の屋根に登りに行きました。言ってみれば不法侵入みた

いのものですが(笑)、登ってみてこういう駅舎だったのだなと手と足に感触が残りましたよ。

—『ヒバクシャとボクの旅』(2010年)はいろんなところで上映されました。

これはNGOのピースボートが『おりづるプロジェクト』という、被爆体験のある方を世界一周する客船に乗せて世界各地で証言を届けていくということをやっています、その記録映像を撮る人を探していたものに僕が応募して始まりました。

4ヵ月かけて地球を一周しましたが、僕も初めての長編ドキュメンタリーだったので映像を撮り過ぎてしまっていて、250時間分の映像を1時間にどうやってまとめようかって(笑)。いろんな方の協力も得ながら半年くらいかけて何とかかたちになりましたが、今でも再編集したいと思いますね。

僕は大学時代に長崎の被爆者のライフヒストリーをまとめる作業をするゼミに所属していました。それで長崎に通ってある方のお話をずっと聞いていました。原爆が落ちた当日の話って、じっくり聞いてみると自分の想像力が追いつかなくて聞いたのにすぐ忘れてしまうということがありま

した。でも僕が担当したおじいさんは一生懸命、時間を割いて汗を垂らしながら話をしてくれました。

大学を卒業して会社員をやっていたある日、その方が亡くなったというお知らせをいただきました。その方は僕にメッセージを残してくれたのですが、僕自身はそれにお応えできていないなという気がしていました。その気持ちをスタートに映画をつくってみようと思い、応募につながりました。

—最近の作品「Endlager (最終処分場)」についてお願いします。

僕のパートナーはドイツの方なのですが、福島事故後の2012年に一緒にドイツへ移住しました。ある意味、事故の影響を避けるためにドイツに来たわけですが、すぐ近くに(放射性廃棄物の)処分場があって、いろいろ調べていくうちにプルトニウムが入っていたり埋めるときに不手際があったり。いまそこに地下水が流れ込もうとしていて、取り出さなければいけない状況ということにびっくりして。それが始まりです。

放射性廃棄物や核って逃げる場所がないのだなと感じました。日本のことも調べたら栃木県塩谷町の処分場

計画があることを知って、そこにも行ってみようというふうになりました。

放射性廃棄物のことは栃木の話とドイツの話、継続して取材を続けたいと思っています。

(まとめ:あべこう一)



## 東京ラブレター

毎週木曜日 (内容は月替わり)

夜 10:00~10:30

4月のオンエア『がん・病気を持った方やその家族に寄り添う活動』

一般社団法人 CAN NET

理事兼事務局長 千葉直紀さんに聞く

●ナビゲーター:あべこう一

高木祥衣 (OurPlanet-TV)

配信元:FMわいわい(神戸市長田区)

協力:特定非営利活動法人 Ourplanet-TV

制作:アワプラジオ

【パソコンで聴く】「サイマルラジオ」にアクセス。「近畿」→「FMわいわい」を選択。  
※Macの方はWindows Media Playerをダウンロードしてください。

【スマートフォンやiPadで聴く】サイマルラジオに対応したアプリ「TuneIn Radio」をダウンロード。(検索窓で「FMYY」)。

## 『Abe's VIEW』 Vol. 17 「ファンドレイザーってなんだ？」

ファンドレイジングとはまだあまり耳なじみがないかもしれませんが、端的には主にNPOによる寄付金や助成金の獲得など資金調達全般をいいます。この場合のNPOとは、いわゆるNPO法人だけではなく、社団や財団、社会福祉法人、任意団体などの非営利団体全般を指します。そんなことは昔から行われているのに、なぜそれをわざわざ横文字に言い換えるのか。それは、ファンドレイジングは単に金集めということではなく、自分たちの活動に共感を呼び起こし、寄付者あるいは助成元に「社会貢献のチャンスを提供すること」とした考えに基づくことを重視する点に違いがあります。

3月12日~13日、東京で開催された『ファンドレイジング日本2016』(FRJ2016)に参加してきました。FRJ2016は欧米などでは盛んなファンドレイジングを日本にも広げようとさまざまな活動を行うNPOの日本ファンドレイジング協会(JFRA)が開催したイベントで、事前申し込みで1000人を超える人が参加しました。

2014年の日本の個人寄付総額の推計は7409億円という統計(JFRA『寄付白書2016』)があります。思ったより多いと見るか、少ないと感じるかは人それぞれかと思えます。ちなみに米国では約27兆3504億円。これは単純に米国が先進的で日本はダメだということではなく、米国は日本ほど公的サービスが充実していないなどの背景や文化の違いなどにもよります。しかしながら、もう行政に頼るような発想だけではやっていけない。公的サービスがしっかりしているといわれてきた日本社会にも、さまざまなほころびが生じてきていることは多くの人が感じているだろうと思えます。

JFRAは「社会の課題を解決するために、民から民への資金の流れが10兆円生まれる時代を実現」(鶴尾雅隆代表理事)させるとしています。確かにそうなれば今とは違った社会となるでしょう。そのためには、NPOの側が人々に信頼されるように倫理観をしっかり持ち、集めたお金の使途の報告を徹底するなどといったことも大切となってきます。

私はいま縁あって、社会福祉法人でのファンドレイジングの仕事にかかわっています。特に東日本大震災以降は、日本人の多くが何か社会貢献したいと考えているといえます。その仲介役・マッチングを行うのがファンドレイジングに取り組む人、ファンドレイザーなのです。(あべこう一/本紙編集長、Singer songwriter、Radio personality)



360度の景色を肌で感じたのは初めてだった。遠く彼方に見える山々がまったく近づいてこない。時折角度が変わったりもするが、いつまでも同じ大きさで遙か地平線の向こう側に佇んだままだ。バスの窓から見えるのは岩だらけの草原で、時折ウシやリャマのような動物を見かけるが、それがなければこの車は本当に走っているのかと疑いたくなるほど、景色は一向に変わらない。気が遠くなるほど果てしない大地が続いている。

ロス・グラシアレス国立公園への拠点となる町、エル・カラファテは小さくひっそりとしていた。すぐ近くには琵琶湖

の倍もあるアルヘンティノ湖があり、その向こう側に見える山の稜線も集まってくるフラミンゴの群れもそれなりに美しい。だがロス・グラシアレス公園の巨大な氷河の迫力にはおおよそ勝てないだろう。

ペリト・モレノ氷河はパタゴニア地方に40以上ある氷河のうちのひとつで長さ30km、最大幅5km、高さは水面上下合わせて最大170mにもなる。圧縮され続けた氷河は空気を含まなくなり、青い光だけを反射してほかの色を吸収するから、白いような青いような不思議な色をしている。その巨大な氷の塊が信じられないほどの轟音を立てて湖面へ崩れ落ちる様子は、離れた展望台にいても恐怖を感じる。そして静寂。次の崩落を待つ間、古い扉をこじ開けるような軋み音が風に乗って空気中に響く。氷河の押し出される音だと分かり、大地の生命力とその躍動を目の前に突き付けられた思いがした。今回氷河の上を歩くトレッキングツアーに参加することができた。クライマックスは氷河の氷で作るオンザロック。ガイドが得意気にグラスを掲げると、太陽光に照らされた氷はこれ以上ない透明感を放って輝いた。

エル・カラファテには、その名もカラファテというブルーベリーに似た小さな実が自生している。その実を食べると再びこの地に戻ってこられるという伝説がある。日本から30時間を超える旅であっても、その実を食べるだけの価値がここにある。（浅香友里）

## Awa Report 明るく楽しい毎日は健康への心がけから

私が最近仲良くなった友達、富田美津子さんは現在60代。とにかく明るくてパワフルな方です。



富田美津子さん

—富田さんはいつだってとても元気ですね。

明るくなくちゃ楽しくないでしょう。毎日を楽しんで生きています。でも私、糖尿病を患っているのよ。でもこれを飲んだら一日5回ほど打たなければならなかったインスリン注射が、一日2回でよくなったの。（そう言ってハーバライフ社の『フォーミュラ1』というプロテインを見せてくれた）。

私も最初はダイエット目的で飲み始めたの。でも1ヵ月は毎日、朝晩2回飲んだのにまったくやせなくて。ところがかかりつけのお医者さんにいつものように診てもらったらとても驚いて「富田さん、数値が全部、半分以下に良くなっているよ。いったい何をしたの?」って。そしてお医者さんにこのプロテインを見せたら、「すごいね。この成分だったらこれからも飲んで大丈夫」と言われて。その後も飲み続けていたら、9ヵ月で11キロもやせて身体の調子もとても良くなったの。

—最初に身体の中のいちばん悪い部分に効いたということですね。

そうなの。だから今、これを勧める仕事をしています。もともと健康には関心があって、『イトオテルミー』もやっているの。イトオテルミーは身体に温かい熱をゆっくり与えて治療する健康療法よ。私の義父が医者から余命半年を宣告されたとき、腰がとても痛いと言っていて。そのとき、医者の許可をもらってこの温熱療法をやってみるようになったの。

義父は「ああ、あったかい。とても気持ちがいい」と言って喜んでくれて。それから週に3回はやってあげるようになって、余命半年と言われていたのが、それから一年半も長生きしてくれたの。

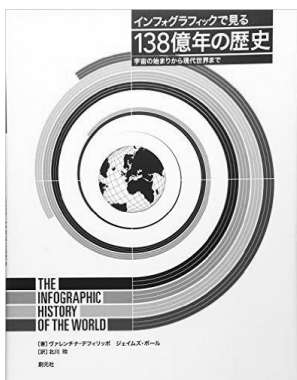
■一般財団法人イトオテルミー親友会 <http://www.ito-thermie.or.jp/>

ご病気のお義父さんに週3回、温熱療法を続けられたやさしい富田さん。そして人の身体の不思議。富田さんのめげない気持ちやとてもポジティブなところに、話していてこちらにも明るい気持ちにさせられます。お話、ありがとうございました。（青柳蓉子）

# 『GREEN BOOKS』～本の紹介～

## インフォグラフィックで見る 138 億年の歴史 宇宙の始まりから現代世界まで (2014 年 6 月)

ヴァレンチナ・デフィリッポ/ジェイムズ・ポール 著 創元社・2916 円



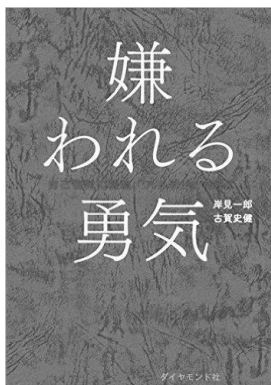
情報を視覚的に表現する「インフォグラフィック」を用いて、宇宙の始まりから現代世界までの歴史をしるした本。体内微生物から紛争の歴史まで、さまざまな切り口からデータを図表化しており、雑誌のようにパラパラとめくるだけでも楽しめる。

グラフがデザインにより 1 枚の絵のようになっていたりして、普通のグラフを見る時のような無味乾燥さがない。一見して情報がわかりやすい物ばかりではないが、絵や図の見た目の面白さが目を引き、説明文で内容の理解を補完するように読んだ。各国の個別の歴史よりも、それぞれの国を一挙に比較したものや、世界全体でのデータが多いのも学生時代の歴史でつまずいた者にとっては頭に入りやすくありがたかった。

社会科は苦手だったけれど、教科書と一緒に配られて、時々開かされる資料集はけっこう好きだった。本書を見てみると、あの資料集を開いた時の感覚を思い出す。気軽に、感覚的に、いろいろな角度から世界の成り立ちを眺めながら、勉強してみたい。(大森周子)

## 嫌われる勇氣 自己啓発の源流「アドラー」の教え (2013 年 12 月)

岸見一郎・古賀史健 著 ダイアモンド社・1620 円



「馬を水辺に連れていくことはできるが、水を吞ませることはできない」。

私が本書で最も感銘を受けた言葉だ。

「～人間は一人では生きていけない、だから助け合わなければいけない」。

これは当たり前と思うかもしれないが、そこには“見えないワナ”が隠されている。相手に対し求められてもいないのにアドバイスをしてしまう。または会社をよくしたいと思っているのに何故ほかの人は理解してくれないんだ！と思うことが多々あるかもしれない。

しかし、そこには重大な勘違いがある。それは「他者はあなたの欲求を満たすために生きていない」という事実だ。

そんなときに考えたいのが冒頭のことわざだ。アドラーによれば、対人関係において「課題の分離」が重要だという。他者とあなたは違うものであり、あなたの人生の主人公はあなたで

あるが、あなたは世界の主人公ではないと理解したとき、すべての悩みから解放され気持ちが楽になるそうだ。

逆に言えば、あなた自身も、目の前にいる他者のために生きているわけではないということ。だから自分の領域に相手が土足で入り込んでくることを拒んでしまって全く構わない。

他者に対して貢献しようという努力をしつつ、他者に認められたいから生きるという承認欲求を否定すること。言うことは簡単でも実践するのは難しいアドラー心理学の神髄にあなたも触れてみてはどうだろうか。あなたが変わることに伴って、世界が変わるはずである。(平川凌兵)

## 告知ボード

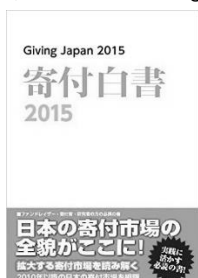
あべこーう講演「ゲイのシンガーソングライターである僕がいま考えていること」

日時：2016 年 4 月 4 日 (月) OPEN 18:30/START 19:00

会場：リン・グレイス (地下鉄『赤坂見附駅』7 分)

参加費：3,000 円 (軽食付き)

主催・連絡先：株式会社リン・グレイス (港区元赤坂 1-4-21 赤坂パレスビル 2F nonchi@ringrace.co.jp 03-5775-4877)



『Abe's VIEW』の中で引用した『寄付白書 2015』は書店でもお求めいただけます。

寄付白書 2015

寄付白書発行研究会 著/日本ファンドレイジング協会 編  
3240 円

アワラジオ通信は千代田区社会福祉協議会 (東京・九段下) の中にあるちよだボランティアセンターに置かせていただいています。また、アワラジオやあべこーうがかかわるイベント等でも配布しています。バックナンバーがウェブサイト上でダウンロードできます。置き場を提供して下さる方も随時募集しています。発送を希望される方もお気軽にご連絡ください。

<アワラジオとは>

NPO 法人 OurPlanet-TV で出会った仲間で、2009 年に開局したミニ FM、インターネットラジオ局です。名称は OurPlanet-TV の略称であるアワプラにちなんでいます (アワプラとは別々の団体です)。

編集長：阿部浩一

発行：アワラジオクリエイティブ

105-0013 東京都港区浜松町 2-2-15 浜松町ダイヤビル 2F

info@awapuradio.com

TEL: 03-6856-0722 FAX: 03-6856-0723

http://awapuradio.com/

※住所が変わりました。